

第674号 展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2005 2006
12・1
月号

博物館に初もうで ●2

新春特別展示「犬と吉祥の美術」

特集陳列「吉祥—歳寒三友を中心に—」

国宝 松林図屏風 ●3

特別展 書の至宝—日本と中国— ●4

特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」 ●7

連続講座「聖徳太子の美術」 ●7

生涯学習ボランティアの募集 ●7

天台宗開宗1200年記念 特別展「最澄と天台の国宝」 ●7

平常展見どころ案内 2005年12月・2006年1月

重文 洛中洛外図屏風(舟木本) ●8

特集陳列「関市・春日神社の能装束」

特集陳列「欧州を魅了した漆器と磁器」

特集陳列「博物館誕生」

親子のギャラリー「鏡のうらおもて」など ●9-11

ようこそ! 博物館の舞台裏へ 庭を守る日々 ●12

INFORMATION コンサート/講演会など ●14

TOPICS ●15

2005年12月・2006年1月の展示・催し物 ●16

博物館に初もうで

東博で楽しむ にっぽんのお正月

博物館で貴重な日本の伝統文化に触れ、心豊かな新年のスタートを。
2006年の干支・犬を描いた美術、お祝いの気持ちのこめられた
吉祥の美術などの展示と和太鼓や獅子舞などの
伝統芸能で皆様をお迎えします。

1月2日は
無料観覧！

～美術館・博物館へ行こう～

A day in the Museum

お正月は1月2日から開館！

埴輪犬
群馬県伊勢崎市上武士出土
古墳時代・6世紀
古代人も犬を飼っていた証拠



(救仁郷秀明)



朝顔狗子図杉戸(部分)
円山応挙筆 江戸時代 天明4年(1784) 当館庭園内
応挙館の杉戸絵。愛くるしい子犬が戯れる様を描く

新春特別展示「犬と吉祥の美術」

2006年1月2日(月)～1月29日(日) 本館特別1・2室

この特集は、戌年にちなみ犬を表した作品、吉祥のモチーフを扱った作品を集め、新年を寿ぐ展示です。犬は古くから狩猟を通じて日本人とかかわりの深い動物で、埴輪をはじめとする考古遺物にその姿をみることが出来ます。江戸時代以降は愛玩動物としての性格が強まり、絵画・工芸の分野でペットとしての犬を表した作品が増えてゆきます。また松竹梅、鶴亀、獅子牡丹、富士山、鷹などの吉祥のモチーフも、古くから日本の美術工芸品のなかに取り込まれていくのです。犬の埴輪や、応挙の子犬の絵、松竹梅の屏風など、館蔵品・寄託品の中から選ばれた作品で、お正月をお迎えください。

新春イベント 雨天時は場所を変更、または中止になることがあります

1月2日(月)

獅子舞 東都葛西囃子睦会 10:30/13:00 本館前
紙切り 林家二楽氏 11:00/13:30 正門内池前
和太鼓演奏 和太鼓御響 12:00/14:30 正門内池前

1月3日(火)

獅子舞 東都葛西囃子睦会 10:30/13:30 本館前
箏曲演奏 正派合奏団 11:30/15:30 本館2階
和太鼓演奏 和太鼓御響 12:30/14:30 正門内池前
クラリネットコンサート アマトウル 14:00/16:00 東洋館エントランスホール

東博寄席 新春初笑い

1月7日(土) 馬生独演会

出演 金原亭馬生 11:00/13:30 庭園内応挙館
2500円(平常展観覧料含む・お茶菓子付き)

※チケットの予約は当館イベント担当(TEL03-3821-9270)

いけばな

1月2日(月)～1月15日(日)

真生流家元・山根由美氏 正門、本館、東洋館、法隆寺宝物館

寛永寺との連携事業

1月2日(月)～1月3日(火) 10:00～15:00

寛永寺根本中堂 特別参拝 ※根本中堂、徳川歴代将軍の肖像画(油画)を公開

ミュージアムショップからお年玉プレゼント

1月2日(月)～1月3日(火)

ミュージアムショップで2500円以上お買い上げの方
抽選で各日、下記のプレゼントを進呈(空くじなし)

- ①2006年カレンダー(100本)
- ②『日本美術名品50選』(30冊)
- ③干支版入り絵葉書たて(15冊)

1月2日～1月31日 新春バーゲンセール(豪華美術図書)

博物館に初もうで 1月2日(月)～1月29日(日) 休館日 月曜日

*ただし、1月2日(月)、3日(火)は開館、4日(水)は休館。

1月9日(月・祝)は開館、10日(火)は休館

特集陳列「吉祥—歳寒三友を中心に—」

2006年1月2日(月)～1月29日(日) 東洋館第8室

冬の厳しい寒さの中、松や竹は常緑を保ち、また、梅は毎年必ず春の魁として美しい花を開いて清香を放ちます。このことから中国の人々は松・竹・梅を厳しい環境でもその節度を守り不変の心をもつものとして「歳寒三友」と讃えてきました。また、松は不老長寿、竹は平安や子孫繁栄、梅は子孫繁栄(子授け)を象徴するものとされました。このように、中国の花鳥画には、例えば、蓮・水鳥・魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿、葡萄・瓢箪・石榴などは子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福というように人々のさまざまな願いがこめられている場合が多く、それらは吉祥図として人々に親しまれてきました。新しい年を寿ぎ、「歳寒三友」を中心に中国の吉祥図を集めます。(湊 信幸)



花卉図 趙之謙筆 4幅対のうち2幅(部分) 清時代・同治9年(1870) 高島菊次郎氏寄贈
長寿を願う桃(右)と、子孫繁栄の瓢箪



国宝 松林図屏風

日本美術を代表する名作
2年ぶりの公開！

12月27日(火)～2006年1月29日(日) 本館2室 国宝室

薄暗い展示場へ歩いて行くと、ぽうと白く浮かびあがる一双の屏風が目に入ります。まずは、遠くから絵をながめてみましょう。その白い空間には、いくつかの黒い群れが置かれています。じっと見つめると、ひっそりと松林が浮かび上がります。ほとんどの人は、静かに見入ってしまい、松林のなかに自分が立っているかのような感覚になるのではないのでしょうか。屏風の前に立つ人も松の一本となつて風景の一部になっているかもしれません。

今度は、絵の側まで行ってみましょう。筆の穂をいくつか重ねた連筆を使い、粗く大胆な筆遣いです。後退りしてしまいそうな迫力です。さらに目を凝らしてみると、料紙に滲き込まれた細かい繊維が、風に吹かれて舞う松葉のようにも見えます。そして墨の濃淡は、光の強弱を生み出し、霧に包まれ、現れ消える松林をみごとに表しています。霧の晴れ間からは、雪山がのぞき、晩秋の冷たく湿った朝の空を感じさせます。また、四つほどのグループに描き分けられた松林は、木々の間を風が通り抜けるように配置されています。さらに艶やかな墨は、限られた階層の人たちだけが手にすることのできる最高級のもので使われています。等伯は、最高の材料で超絶した技と緻密な計算によって、この松林を描いたのです。

もう一度、遠くから絵をながめてください。先ほどみた松林とかたちが変わっていませんか。霧が漂い、光の加減も変化して松の姿を変えてしまったのです。あやうい松のかたちは定まらず、しばらく松を見てみると、静かに能を舞う人のかたちにも見えてきます。さらに時間が経てば、この屏風の景色は、一変しているかもしれません。

等伯は、世界のどこにもないこの松林を描きました。しかし、見る人によっては、この場所が三保の松原や、あるいは天橋立の松林に見えるかもしれません。作者である等伯の故郷、能登半島の七尾には、現在も屏風のような松林の風景が広がっています。

(松嶋雅人)



●松林図屏風 写真上：左隻全図 下：右隻部分
長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀
世界のどこにもない景色—静かな風とやわらかな光を感じてください

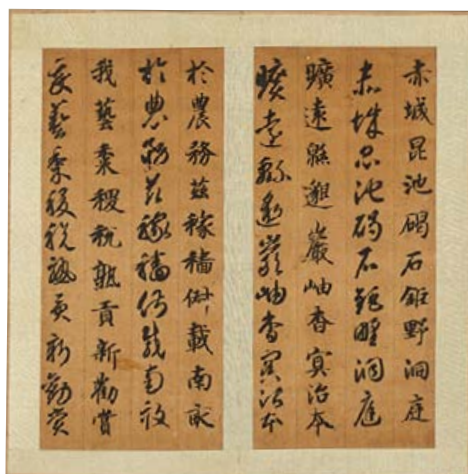
特別展 書の至宝

日本と中国

中国の書

国宝 真草千字文 智永筆

王羲之の遺韻を伝える究極の写本



●真草千字文
智永筆 部分 隋時代・7世紀
個人蔵 唐時代以前の古風な様式を伝える

「天地玄黄、宇宙洪荒」に始まる千字文は、一字も重複のない千字文を選び、四字ずつ二百五十句の韻文としたものです。識字と習字に格好のテキストとして、歴代の名家の手になる作例が多くあります。楷書・草書と草書を交互に書く本作は、智永の真草千字文として最も名高いもの。王羲之の第七世の孫にあたる智永は、永欣寺に三十年間閉じこもり、真草千字文八百本を書写し、諸寺に施したといわれます。本作は、八百本の一つが日本に将来されたと考えられるもので、『東大寺献物帳』の記載に一致します。

(富田 淳)

苦筍帖 懷素筆

奔放な草書之美

懷素は、唐時代に能書を謳われた僧。酒を愛し、興に乗ると絶叫して壁一面に縦横に書きまくったと伝えられます。奔放な草書に長じ、世に草聖と尊ばれました。この作品は「めずらしく佳い筍」と茶があるから、すぐにでも来られたし」というわずかに二行の書簡です。懷素の代表作として知られる「自叙帖」は、最近では北宋初期の作とする説が支持されており、本作が現存する懷素の唯一の真跡と考えられています。

(富田 淳)



淳化閣帖(最善本) 王羲之筆

中国書法の教科書

淳化閣帖(最善本)
宋・淳化3年(992) 上海博物館蔵
法帖は書法を継承するための基礎的な教科書

日中書法こぼれ話

書法の継承

楷書は、科擧の試験で誤字が罰則の対象となり、たびたび公式字体として厳密な規範化が推進されてきました。ゆえに、歴代名家の用例にバラつきが少ないのも首肯できます。しかし日常使用される行書や草書も、その用例は時代や個人にかかわらずほぼ一定のくずし方を遵守し、その上に独創的な表現が盛り込まれています。現在のようない印刷技術のなかった当時、拓本や法帖の果たしてきた役割は広範にして根深く、その周辺にも拘すべき文化が培われてきた一面に目を向けてゆきたいものです。

(富田 淳)

淳化閣帖は、宋の太宗皇帝が臣下の王著に命じて、宮廷に収蔵される歴代の名跡を編集させ、法帖として刊行したものです。澄心堂紙と呼ばれる良質の紙に、李廷珪の名墨を用いたといい、初版は木刻と石刻の両説があります。しかし、刊行後まもなく宮廷が火災に遭い、淳化閣帖の原本も損傷を受けたと考えられます。そのため宋時代の拓本は極めて稀少です。

この淳化閣帖は、数少ない宋拓の中でも、その刊行年代を北宋と確定できる貴重なもの。二〇〇三年に上海博物館がアメリカから高額で買い戻し、初版本(祖本)と発表して一大センセーションを巻き起こしました。

(富田 淳)

この展覧会では、日本と中国の書の名品を通して、中国における書の歴史をたどり、その影響を受けながら独自の世界を築いてきた日本の書の流れをご覧いただきます。文字には、意思や思想を伝えるという実用の面での役割があります。中国、そして日本では、王羲之や空海などが、その文字を東洋を代表する芸術「書」へと成長させました。当館では実に五十二年ぶりの日中書法展となります。今回は特に上海博物館からの出品をあわせ、中国は甲骨文字から清時代まで、日本は聖徳太子の書から江戸時代まで、選り抜かれた名品約一九〇点が一堂に会します。まさに空前の書展です。ここでは、そのなかからとくに見逃せない作品を紹介し、鑑賞ください。

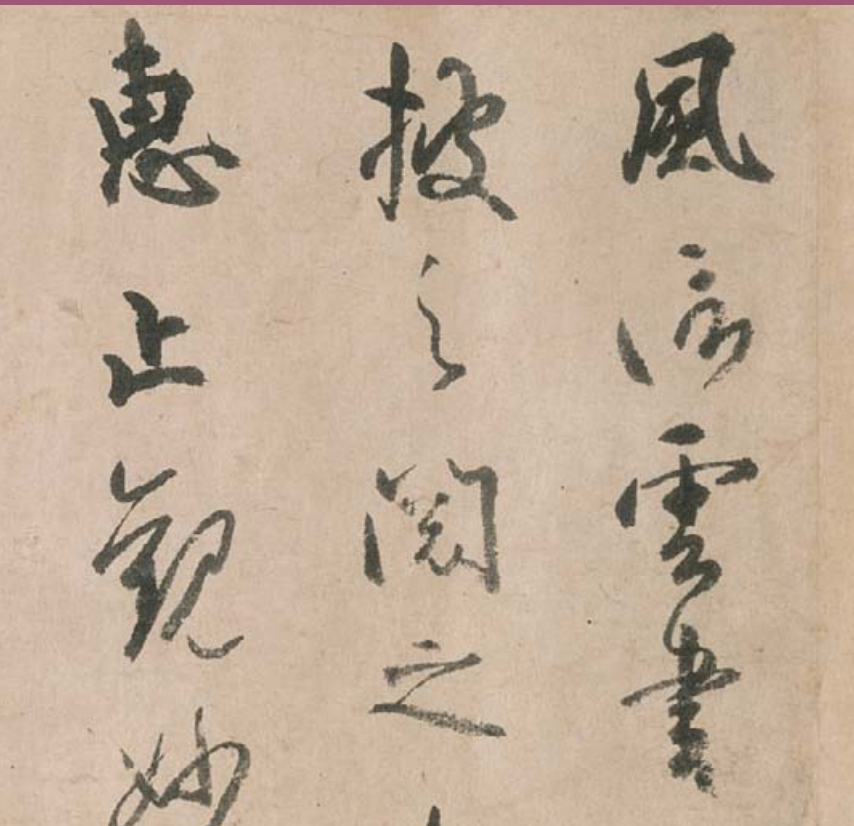
日本の書

国宝 風信帖 空海筆

中国書法を手中に、自在に筆をふるう

空海から最澄に宛てた手紙三通を一巻に仕立てたもの。第一通目の書き出しが「風信雲書」で始まることから、この名前と呼ばれます。一緒に入唐し日本の真言・天台の祖となった両者の交流を物語るものとして貴重な手紙。空海が大同年(八〇六)に帰国してからしばらく経った弘仁三(八二二)〜八(八三三)ころのものと考えられます。三筆の一人として能書で名高い空海の遺品の中で、最も著名なものです。伝統的な王羲之書法や顔真卿の書法を手にしたもので、三通それぞれに書風が異なり、豊潤で重厚、潤達自在と実に変化に富んだ多様な書法を展開しており、書道史・仏教史の上でも注目される遺品です。

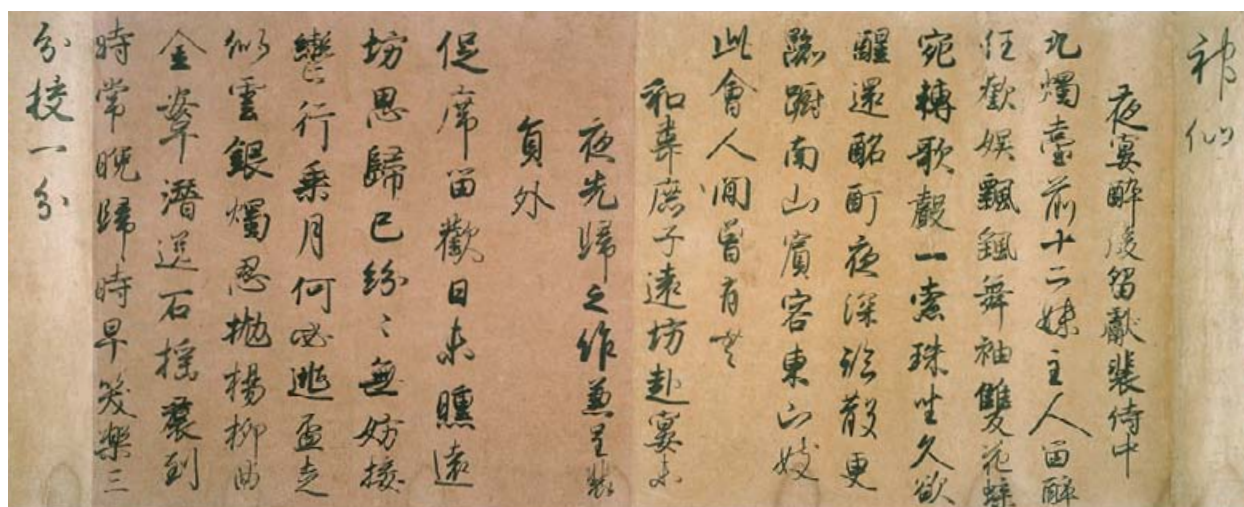
(鳥谷弘幸)



●風信帖 部分 空海筆 平安時代・9世紀 京都・教王護国寺蔵
1通目書き出しの部分。「書の至宝」展では、3通すべてを展示

国宝 白氏詩卷 藤原行成筆

明るく優美な和様の書



●白氏詩卷 部分 藤原行成筆 平安時代・11世紀 伸びやかな筆の流れに注目(1月11日~1月29日展示)

日中書法こぼれ話

行成、夢で道風にあう

寛平6年(894)の遣唐使の廃止や延喜5年(905)の『古今和歌集』の撰進など、平安時代はわが国独自の和様化の動きが加速した時代でした。書の世界では、「羲之の再生」とまでいわれた小野道風が、王羲之の文字の造形を基盤としながら、その筆致は柔和な和様の書を展開しています。すでにその生存中から、道風の書を持たない人は恥ずかしい、といわれるほど道風の書は人々に愛好されていました。藤原行成は、道風書法全盛の時代に彼の書を手本として育ちました。道風への追慕の思いは成人してからも続き、行成の日記には、夢で道風にあって「書法を授けてとらせよう」と言われたことを感激して記しています。

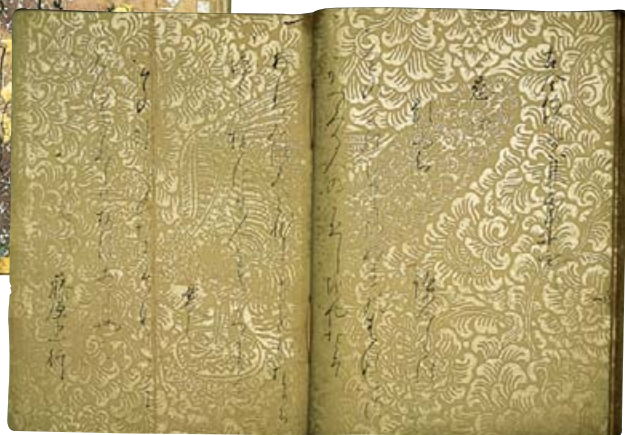
(鳥谷弘幸)

平安時代の宮廷貴族は、教養として漢詩や和歌の素養、文字を巧みに書くことなどが求められました。漢詩の中でも、とりわけ唐の詩人・白居易の詩集『白氏文集』が大いにもてはやされました。この「白氏詩卷」は、その白樂天の詩の流行を受けて、美しい染紙の料紙に三跡の一人として知られる当代随一能書の藤原行成(九七二〜一〇二七)によって書写されたもの。贈答の品として鑑賞用に特別に作られた調度手本で、行成四十七歳の自筆です。行成は当時盛行していた小野道風の書法の影響を受けながらも、明るく瀟洒で優美な和様の書法を完成させました。その書は、今でも気品が高く、新鮮で、後世にまで大きな影響を与えることになりました。

(鳥谷弘幸)



●古今和歌集(元永本)
平安時代・12世紀
上下ともに展示。
毎週ページ替えを行う予定



■記念講演会

2006年1月21日(土) 13:30~15:00 平成館大講堂
「中国書法の受容と和様の成立」 展示課長 島谷弘幸
事前申込制 定員380名

聴講無料(ただし、特別展「書の至宝」の観覧券が必要です)
申込方法 官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください

*1枚のはがきで、1人のみ申し込み可能
*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります
申込先

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9ヤマナシビル4F
「書の至宝」講演会 係

申込締切 12月22日(木) 必着 聴講券は1月中旬頃発送いたします

■同時開催

現代書道二十人展50回記念
日本書壇の歩み—昭和から平成へ

2006年1月11日(水)~2月19日(日)

現代の日本書壇を代表する書家20人による新作展「現代書道二十人展」(朝日新聞社主催)の50周年を記念して、同展出品書家の中から、東京国立博物館が所蔵する過去の出品書家12人の作品と、現在同展で活躍する20人の新作を通して、日本における昭和から平成への書壇の歩みを紹介いたします。

第1部 本館1階特別3室

◆東京国立博物館が作品を所蔵する過去の出品書家

青山杉雨、金田心象、熊谷恒子、田中塊堂、手島右卿、西川寧、日比野五鳳、藤岡保子、豊道春海、深山龍洞、宮本竹逕、柳田泰雲 (以上東博所蔵作品を展示する書家)

第2部 平成館1階企画展示室

◆第50回「現代書道二十人展」出品書家

新井光風、井茂圭洞、梅原清山、榎倉香邨、尾崎邑鵬、河野隆、栗原蘆水、黒田賢一、小山やす子、関正人、高木聖鶴、種村山童、樽本樹邨、土橋靖子、成瀬映山、日比野光鳳、古谷蒼韻、星弘道、村上三島、吉川蕉仙 (五十音順)

『古今和歌集』の仮名序および二十巻すべてを完存する現存最古の写本です。上下二帖の綴葉装仕立になる冊子本で、原装のまま伝存しています。上巻の末尾には、本文と同筆で「元永三年七月廿四日」と奥書が加えられており、その年号にちなんで元永本の名で呼ばれています。紫・赤・緑・黄・茶・白など色とりどりの具引き地の上に、唐草・菱文様・亀甲・七宝などの型文様を刷り出した華麗な和製の唐紙を用いています。この唐紙を表とし、裏は金銀の切箔・芒・砂子などを撒いて装飾した料紙の美しさには、思わずため息が出るほど。さらに、変化に富んだ書風や散らしの妙はその筆者の能書ぶりを十二分に発揮したものです。筆者は、藤原行成の曾孫・定実(一〇七七~一二一九)と推定されています。(島谷弘幸)

国宝 古今和歌集(元永本) 料紙装飾の粋と散らしの妙

特別展 書の至宝—日本と中国

2006年1月11日(水)~2月19日(日)

東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館 朝日新聞社 テレビ朝日 上海博物館
後援：外務省 文化庁 中国大使館 神奈川県教育委員会 埼玉県教育委員会 千葉県教育委員会 台東区教育委員会
協賛：大日本印刷株式会社 松下電器産業株式会社
観覧料：一般1400円(1200/1100) 大学生1000円(900/800)
高校生900円(800/700) 中学生以下無料

* () 内は、前売り/20名以上の団体料金です

* 障害者とその介護者1名は無料です。

入館の際に障害者手帳などをご提示ください

* 作品保護のため、展示期間中作品の展示替えがあります

◆上海展

中日書法名品展(仮称)

2006年3月11日(土)~4月23日(日) 上海博物館



●天寿国繡帳 飛鳥時代・7世紀 奈良・中宮寺蔵

聖徳太子御忌日記念特別公開 「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」 連続講座「聖徳太子の美術」

2006年春、法隆寺宝物館第6室において、聖徳太子御忌日記念特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」を開催することになりました。聖徳太子の忌日である2月22日(旧暦)を記念して、奈良・中宮寺所蔵の「天寿国繡帳」(国宝)と法隆寺所蔵の「聖徳太子像」を特別公開いたします。法隆寺献納宝物からは「聖徳太子絵伝」(国宝)を展示。聖徳太子にゆかりの深い作品を揃ってご覧いただける貴重な機会です。

この特別公開「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」にあわせ、3日間の連続講座を行います。聖徳太子が亡くなったあとの浄

土での様子を描いたとされる「天寿国繡帳」の制作の背景や刺繍技法の特色、さらに聖徳太子に関わる信仰や美術について専門の研究者がお話します。3日間の連続講座ですが最終日には展示をご覧いただく機会を設けました。どうぞごゆっくりとご鑑賞ください。

聖徳太子御忌日記念特別公開 「国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像」

2006年3月14日(火)～4月9日(日) 法隆寺宝物館第6室

* 平常料金(一般420円)でご覧いただけます

連続講座「聖徳太子の美術」

3月17日(金)

- 第1講 13:20～14:50 聖徳太子信仰と法隆寺献納宝物
当館事業部長 金子啓明
- 第2講 15:00～16:30 聖徳太子の仏教美術
当館上席研究員 松浦正昭

3月18日(土)

- 第3講 13:00～14:30 天寿国繡帳制作の背景
奈良大学教授 東野治之
- 第4講 14:40～16:10 法隆寺献納宝物の刺繍と天寿国繡帳
当館環境保存室長 澤田むつ代

3月19日(日)

- 第5講 13:00～14:30 聖徳太子絵伝の世界
大阪市立美術館主任学芸員 朝賀 浩

会場 平成館大講堂 定員380名

受講料 1000円(初日に徴収、平常展観覧料含む)

申込方法

官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください

*1枚のはがきで、1人のみ申し込み可能

*応募多数の場合は、抽選のうえ受講証を送ります

申込締切 2006年1月31日(火)(必着)

申込先 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館教育講座室「聖徳太子の美術」係

平成18年度東京国立博物館 生涯学習ボランティアの募集

当館では、お客様に対する生涯学習機会の増大とサービスの向上を図るために、ボランティアによるさまざまな活動を行っています。親と子のギャラリー等で企画されたワークショップや講演会の運営補助、パンフレットや各種配布資料の印刷、いろいろなデータの整理や入力など、博物館の運営を支える活動を基本とし、館内でのお客様へのご案内やガイドツアーなども実施しています。このような当館のボランティア制度の趣旨を理解し、活動していただける生涯学習ボランティアを募集いたします。活動期間は平成18年4月から3年間です。応募については当館ホームページ(URL <http://www.tnm.jp/>)に1月中旬頃から掲載しますので、ご覧ください。募集に関するお問い合わせは、

当館教育普及課ボランティア室 TEL 03-3822-1111(代表)



来館者の案内やデータ入力など活動はさまざま



天台宗開宗1200年記念 特別展 「最澄と天台の国宝」

●聖観音立像

平安時代・12世紀 滋賀・比叡山延暦寺蔵 比叡山の奥深くに位置する聖地「横川」の中心となるお堂の本尊。信長の焼き討ちや落雷による火災で中堂は消失したが(現在の横川中堂は1971年に再建)、本尊は奇跡的に救い出された



●円珍贈法印大和尚位並智証大師諡号勅書
小野道風筆 延暦寺第五世座主円珍の没後36年目に円珍を大和尚位に昇格し智証大師という諡号(しごうおくりな)を贈る旨をしるした勅書

天台宗開宗1200年記念特別展「最澄と天台の国宝」

2006年3月28日(火)～5月7日(日) 東京国立博物館 平成館

主催: 東京国立博物館 天台宗 比叡山延暦寺 読売新聞東京本社
観覧料: 未定

延暦二十五年(八〇六)に、桓武天皇の勅許を得て、京の良(東北)にあたり、都の鬼門を守る比叡山に天台宗は開宗しました。
宗祖・最澄は、中国の天台大師の教えのもと、国家鎮護だけでなく、仏教はすべての人々を救うと説きました。この教えを慕って仏教を志す多くの僧が比叡山に学び、最澄の没後も、その教えは円仁、円珍らに受け継がれて全国に広がり、日本仏教において天台宗は大きな役割を果たしてきました。
この展覧会は、延暦寺をはじめ天台宗関係寺院に伝わる代表的な宝物を一堂に展示し、法華経信仰、阿弥陀・浄土信仰から密教、山王神道にまでいたる天台の幅広い信仰に育まれた美の世界を紹介いたします。延暦寺横川中堂の本尊「聖観音立像」はじめ、いくつもの本尊仏を寺外で初めて公開いたします。(鳥谷弘幸)

都が放つ光輝と陰翳

重文 洛中洛外図屏風(舟木本)

12月6日(火)〜2006年1月15日(日)

本館7室 屏風と襖絵



◎洛中洛外図屏風(舟木本) 右隻部分 江戸時代・17世紀

右隻と左隻を鴨川の流れが結び、密集する京の町が四方に広がる。花見帰りの人々が太閤橋と称された五条大橋の上で浮かれ踊る。華やかだがどこか物悲しいその姿は、豊臣氏の盛衰を漂わすかのようだ

洛中洛外図は六曲屏風一対にわたって京都の洛中(市街)と洛外(郊外)の名所を描き出し、そこに四季折々の人々の生活を活写した都市風俗図です。その母胎は四季絵や月次絵、名所絵などであり、それらが室町時代後期頃、大画面へと統合されたものといえます。しかし洛中洛外図の最も魅力的な点は、とどまることなく移り変わる時勢を、都の景観に託して象徴的に描き出しているところにあるでしょう。

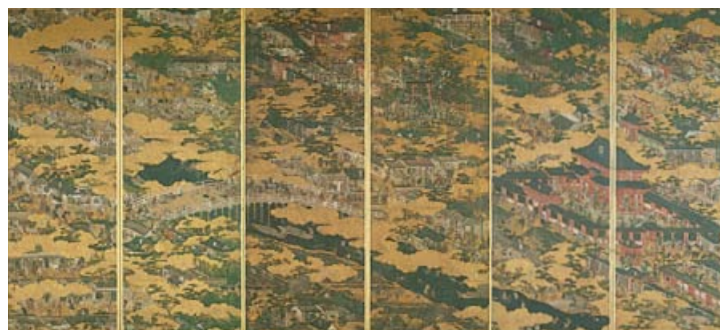
滋賀の舟木家に伝来したこの舟木本は、左隻に徳川氏の威光を象徴する二条城を、右隻に豊臣氏の余光として方広寺大仏殿を描いています。景観年代は元和元年(一六二五)と特定されますが、描かれた時期は必ずしもそれと一致しないかもしれません。いずれにせよ、二条城と大仏殿とが物語るのは、新たな時代への希望と、過ぎ去りし時代へのオマージュでしょう。

この洛中洛外図は岩佐又兵衛勝以の様式を顕著に示しており、又兵衛工房の作と考えられています。又兵衛は織田信長に滅ばされた荒木村重

の子として生まれ、狩野派あるいは土佐派に学んだと伝えられます。しかし彼は正系の画風に納まりきらない極めて個性的な様式を完成させました。又兵衛こそ最も魅力溢れる在野の画家の一人といえるでしょう。

この屏風には何千という人々が、又兵衛工房らしい原色濃彩金銀泥の鮮やかな衣装をまとって、踊り、歌い、飲み、笑い、狂乱にも似た「生きること」の熱気を伝えていきます。しかしながらつづさに人々の表情や仕草をみつめてみると、喧嘩や泥酔、浄瑠璃に涙する姿、うつむきがちに通る旅人など、浮世の陰翳のような薄暗い闇が漂っています。もしこれが乱世ゆえに天涯孤独に生きた画家、又兵衛の作といえるのであればなおさら、生きることの歎びと悲しみが、都市の聖と俗のエネルギーに込められているように思えてきます。

都市風俗図としても最上級に楽しめる屏風ですが、画家が親愛を込めて屏風に埋め尽くした人々の喜怒哀楽のドラマも、ぜひゆっくりとご堪能ください。(小野真由美)



◎洛中洛外図屏風 全図

注目の 特集

本館9室 能と歌舞伎

中世能装束の精華

特集陳列「関市・春日神社の能装束」

12月27日(火)～2006年2月26日(日)

岐阜県関市・春日神社の能装束は、室町～安土桃山時代に調製されました。江戸時代以降の能装束とは異なった趣があります。中国から舶載された珍しい金欄や黄緞の狩衣・法被・側次は、神事能にふさわしい格調を備えています。日本独自の技法である糊防染で染め上げた直垂・素襖は、近世以降における友禪染や小紋染の源流をたどる上でも貴重です。また、中世の刺繍技法「渡し繡」を駆使し摺箔を凝らした古雅な雰囲気

気の縫箔は、表着にふさわしい華やかな模様と、絹刺繍の輝きが魅力となっています。重要文化財十件を前期と後期にわけてすべて公開いたします。

(小山弓弦葉)



◎素襖 紺麻地草花色紙散し模様 室町～安土桃山時代・16世紀
もともとは武家装束の形である素襖。芸能衣装にふさわしく華やかな染模様に



唐人物花鳥獸時絵櫃

江戸時代・17世紀

黒漆塗に高蒔絵の家具は人気が高く、欧州で模倣技法が開発されたほど

欧州を旅行し、王侯貴族の城館の中を訪れたことがある方は、当主一族の肖像画や西洋の調度とともに、東洋の漆塗家具や磁器を目にしているかも知れません。豪華で重厚なその室内に見事に溶け込んでいるため、それと気づかずに見過ごしてしまう場合もあることでしょう。しかし、近世ヨーロッパで輝いた日本工芸

本館14室 工芸

ヨーロッパで輝いた日本工芸

特集陳列「欧州を魅了した漆器と磁器」

12月23日(金・祝)～2006年2月19日(日)

ロップパの上流階級の間には、東洋趣味が広く浸透していました。特に十七世紀、欧州には漆のように深い黒色で艶のある塗料は存在せず、磁器の製造法は未だ説明されていませんでした。そこで人々は競ってこれを集め、漆器や磁器は東洋を象徴するものとして、彼らを魅了し続けたのです。今回の展示ではこの二種を一緒に並べ、かの地で愛でられた頃の姿を偲びます。

(竹内奈美子)

本館16室 歴史資料

江戸と明治のスペクタクル

特集陳列「江戸の見世物」

特集陳列「博物館誕生」

クリスマスからお正月には、楽しい見世物の特集です。江戸時代、見世物は人々の最大の娯楽でした。両国橋の付近などには、たくさん見世物小屋がありました。あたくも生きているかのような生人形、軽業のスター早竹虎吉、幕府が禁止するほど流行した曲独楽、スケールの大きい籠細工、ご利益のある珍しい動物の様相をご紹介します。

12月23日(金・祝)～2006年1月15日(日)
2006年1月17日(火)～2月26日(日)

続いて一月後半からは、当館の誕生物語をたどる特集です。草創期の東京国立博物館が、日本で最初の近代博物館として形成されていった背景には、幕末に海外を視察し、明治時代の殖産興業政策と深く関わった町田久成、田中芳男らの見聞や思想が大きな影響を及ぼしています。壬申検査などの資料をとおして、当時の博物館がめざしていたものを考えてみたいと思います。(高橋裕次)



▲風流生人形 部分
一寿斎国貞 安政3年(1856)
吉原で評判の遊女黛の身ごしらえの姿を写す生人形を描いた浮世絵

▲古今珍物集覧 部分
一曜斎国輝 明治5年(1872)
明治5年に開催されたわが国最初の博覧会の陳列。これが博物館のはじまり



本館5室 武士の装い

出雲の名宝

国宝 白糸威鎧

12月20日(火)～2006年3月12日(日)

出雲(島根県)の日御碕神社に伝来した名甲で、花輪違の丸の金物を用いた白糸威鎧です。当初の姿をよく伝えています。白糸が残るのは、草摺や袖の一部で、多くの威は「文化二年修補」という文字が染出された白糸が用いられています。これは、松江藩主で不昧と号した松平治郷の命によって修理され、今からちょうど二百年前の文化二年(一八〇五)に現在の姿となったためです。江戸時代の模範的な修理として高く評価されています。(池田 宏)



●白糸威鎧
鎌倉時代・14世紀
島根・日御碕神社蔵
200年前、出雲から
江戸に運ばれて
修理された

◎八幡三神坐像
鎌倉時代・
嘉暦元年(1326)
島根・赤穴八幡宮蔵



全体に破綻のない堅実な作風を示し、鎌倉時代末の神像の数少ない基準事例として貴重です。(丸山士郎)

重文 八幡三神坐像 12月23日(金・祝)～2006年3月19日(日)
鎌倉末の貴重な神像
赤穴八幡宮は島根県の南東部、飯石郡赤来町に所在し、平安時代末には京都の清水八幡宮の末社として記録に登場します。八幡三神像は、八幡神の像内に納められた二枚の銘札から、嘉暦元年(一三二六)、この地域の荘園である赤穴庄の地頭紀季実を施主として、山城国の大仏師慶(鏡)覚によって造立されたことが知られます。紀氏一族は清水八幡宮から現地に派遣された荘官であること、清水八幡宮の造像に携わった仏師に覚成や幸覚など「覚」の字をもつ仏師が知られ、慶覚もその系統に属すると推定されることから、この像は清水八幡宮と密接な関係をもつて造立されたと考えられます。全体に破綻のない堅実な作風を示し、鎌倉時代末の神像の数少ない基準事例として貴重です。(丸山士郎)

本館8室 書画の展開

友を思う気持ちに結実した肖像

重文 高久露屋像

12月6日(火)～2006年1月15日(日)



露屋は、下野出身の画家。江戸に出て谷文晁の写山楼で渡辺華山や立原杏所、椿椿山らと交わりながら画技を深めました。天保十四年(一八四三)四月、四十八歳でその生涯を終えました。墓は博物館に近い谷中の天龍院にあります。本図は露屋をよく知る椿山(一八〇一～一五四)が描いたもの。露屋の死後二年を経た弘化二年(一八四五)の画稿があり、没後に描かれたものとわかりやすく。絵筆を手にした姿には、華山による透徹した眼差しによる追真的写生ではなく、露屋を偲ぶように筆を進める椿山の制作態度がうかがえます。(田沢裕賀)

◎高久露屋像 椿椿山筆 江戸時代・十九世紀
写生とはなんだろう。友人を偲ぶ思いが写しだした姿

本館18室 近代美術

平治物語絵巻から生まれた大作

平治合戦

12月23日(金・祝)～2006年2月5日(日)

現在、ボストン美術館に所蔵される「平治物語絵巻(三条殿夜討巻)」の冒頭の場面を大画面にアレンジした作品です。同絵巻は、日本画の復興に貢献したアーネスト・フェノロサがアメリカ合衆国に持ち帰ったものでした。幕府の奥絵師の家に生まれた狩野友信(一八四三～一九二二)は、来日したフェノロサの日本美術研究を助け、彼の依頼で牧谿の「観音猿蓑図」(大徳寺蔵)などを模写した画家です。シカゴ万博に出品されたこの絵を当地で見たフェノロサの目には、果たしてどのように映ったのでしょうか。(松原 茂)



平治合戦 狩野友信筆 明治二十六年(一八九三) 炎上する後白河院の御所三条殿。鎌倉時代に作られた絵巻の一部を題材とする

本館19室 近代工芸

色彩と造形の粋

特集陳列「伝統工芸の技と美」

12月23日(金・祝)～2006年4月2日(日)

日本の工芸は、明治時代になってそれまでの武家の需要という後ろ盾を失い、一時衰微しましたが、外国への輸出という道を切り開くことによって、その技術を継承したといえます。外国への輸出によって日本の工芸が変化したことは、日常で用いることのほか、それを部屋で飾って鑑賞して楽しむことでした。現在の伝統工芸は、その鑑賞という目的で制作されてきたことも否めません。したがってどの分野にあっても色彩感を出した作品や、あるいはその造形美を楽しむ作品が多いのも特徴であると思われます。今回の陳列は、陶磁、漆工、金工ともそうした作品を集めてみました。また須賀松園の蠟型鑄造の「ねこ」は、まさに後者の代表的な作品です。それとともに布の染めに用いる伊勢型紙も併せて展示いたします。(原田一敏)



ねこ 須賀松園作 昭和時代・20世紀
彫塑的に単純化した猫だが、その特徴を的確に捉えている。制作には蠟型と呼ばれる飛鳥時代以来の伝統的な技法が用いられた

白釉水注 磁州窯

白釉水注
磁州窯 北宋時代・11～12世紀 横河民輔氏寄贈
気取らない、親しみやすい作風が魅力



鉄分の多い灰色の素地に、白土が厚く掛けられており、白磁とは異なるあたたかみのある釉膚となっています。民衆の日用の器を焼いた民窯の製品であり、磁州窯と総称されています。実用の器らしく仕上げには粗さがみられるものの、宋代のやきもの特有の、引き締まった端正な姿を示しています。この種の陶器は、北宋時代末の大観二年（一一〇八）の秋に、川の氾濫で一挙に泥の下に埋もれてしまった鉅鹿の町の遺跡から大量に出土したことにちなんで、鉅鹿の愛称で親しまれています。（金井 敦）

12月20日（火）～2006年4月23日（日）

鏡の不思議な世界へご招待

親と子のギャラリー 鏡のうらおもて

11月8日（火）～12月18日（日）



羽黒鏡
平安時代・12世紀
どんな祈りが込められたのか。池に沈められていた漆黒の鏡

弥生時代に大陸からもたらされた鏡、折りとともに地中に埋められた鏡、ある角度から光をあてたとき、文字が現れる不思議な鏡、江戸時代のおしゃれアイテムとしての鏡…。鏡はいろいろな過去を秘めています。そして裏側には仙人や神獣が住む世界や、日本人独特の癒しの風景が広がっています。今回の親と子のギャラリーでは、そんな鏡のミステリアスな世界をご紹介します。平安時代、修験者たちの手によって、池に沈められた羽黒鏡の漆黒の輝きなども、ぜひ会場でごらんください。（吉田知加）

特別展「書の至宝—日本と中国」を見たあとに 平常展でも書の世界を楽しもう！

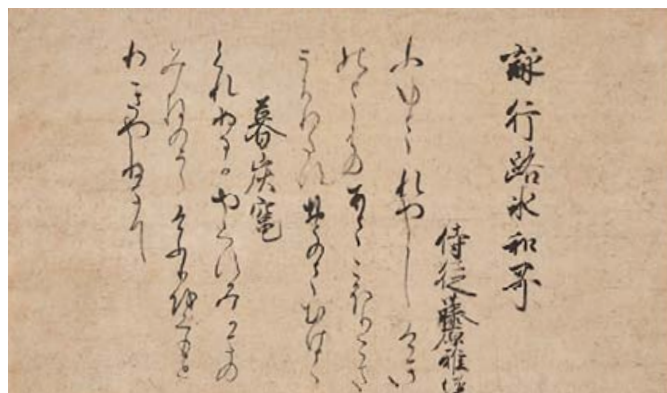
『新古今和歌集』撰者の歌と筆跡

重文 熊野懷紙

12月20日（火）～2006年2月12日（日）

本館2階の日本美術の流れには各時代の書の名品が展示されています。ここでは中でも見逃せない一点をご紹介します。

後鳥羽天皇は、建久九年（一一九八）の譲位以降、承久三年（一二二二）の隠岐遷幸までの間、毎年のように熊野三山へ参詣しました。熊野懷紙は、その道中での当座の歌会で詠まれた和歌を、参加者が清書したものです。現存遺品はいずれも二首懷紙で、この一幅はいつのものか不明です。筆者の飛鳥井雅経は、鎌倉時代初めの公卿で、和歌と蹴鞠を能くし、今年成立八百年を迎える『新古今和歌集』の撰者もつとめました。熊野懷紙は、和歌懷紙の書式が定型化する以前の懷紙で、行間や余白に溢れる瑞々しさは見どころの一つです。（丸山猶計）



◎熊野懷紙 飛鳥井雅経筆 鎌倉時代・13世紀
歌会の場で詠んだ歌を清書したもの。題は「行路水・暮炭電」

もうひとつの書の楽しみ

特集陳列「小林斗盦氏寄贈中国印譜」

2006年1月2日（月）～3月12日（日）



集古印譜 顧從徳編
明時代・万暦3年（1575）小林斗盦氏寄贈 西泠印社の創始者の一人、丁仁の旧蔵品。原鈐本で、しかも各所に書き込みがある

平成十四・十五の両年度にわたって、東京国立博物館は小林斗盦（唐造氏）愛蔵の中国稀観印譜および篆刻資料、四百余件のご寄贈を受けました。中国における印譜の歴史は、宋代に遡り、明代に入ると実際に原印を手押した原鈐印譜が刊行されるようになります。歴代の主要な印譜を網羅する小林氏のコレクションは、その多くが製作部数の少ない原鈐本で、しかも編者自身が注記を書き加えた稀観本が多数含まれています。小林斗盦氏の高いご見識とご好意に深甚の敬意を表し、このたび、コレクションの一部を特集陳列いたします。「書の至宝」展とあわせてご高覧ください。（富田 淳）



④ ツタンカーメン展(昭和40年)の来場者の行列。永田さん着任の頃の博物館の前庭を今に伝える貴重な写真。現在の東洋館の場所は広場のよう。ユリノキも表慶館前のヒマラヤスギも現在と比べるとかなり小さい



④ 東博のベテラン庭師・永田昭吾さん

ようこそ！
博物館の舞台裏へ



第7回

庭を守る日々——ベテラン庭師のお仕事

「ユリノキの花が咲いたら行きます」「桜はそろそろですか?」「庭園開放はいつ?」博物館には、庭に関するお問い合わせやお便りがたくさん寄せられます。そう、緑あふれる庭園は、国宝の屏風や絵巻と同様、東博の大切な宝もの。今回は、この庭をめぐる舞台裏にご招待。

お城から博物館へ

永田さんが東京国立博物館にきたのは、昭和三十七年一月十六日、三十二歳のときでした。

辞令をうけとったのは熊本城。永田さんはそこで城の保存修復工事に関わっていたのです。前年に東博の庭園技術者が亡くなったため、その欠員補充のための転勤でした。当時、主任の庭園技術者が一名、さまざまな庭園管理の作業を行う職員が三名、永田さんを加え、計五人体制で仕事をしていました。その頃は冬場になると、暖房用の石炭ボイラーに入手がいたため、うち二人がそちらの仕事にまわっていたとか。現在、庭の仕事をしているのは永田さんのみ。手の回らない部分はシルバー人材センターにお願いをしています。館の体制も、施設もこの四十数年の間に大きく変わりました。

それにしてもお城の保存修復工事から庭師への転向、戸惑いはなかったのでしょうか。

「父が植木屋だったので、若いときから樹木の名前なんかはよく知っていたんです。熊本城でも草を刈るとか、そういう作業はやっていましたね。でも、ほとんどは博物館にきてから主任に教わりました。」

当時は、法隆寺宝物館を建築中、東洋館もなかった頃。

みたいになっていて、草ぼうぼうだったね。法隆寺宝物館の脇にある校倉は、その頃、今の東洋館のほうにあったね。平成館のところは木立がも

つとあって、笹がたくさん生えていました。当時は春になると本館の裏にはツクシがたくさん出て、ヤブミヨウガやツワブキ、そうそうキイチゴなんかもあった。みんな、いつの間にか消えちゃったね。今は、ニリンソウが咲きますよ。昔はなかった。あれは昭和六十年ころかなあ、だれか職員が持ってきて植えたらあんなに増えたんですよ」

樹木の下草として生える小さな植物にも歴史があることを、永田さんは教えてくれました。本館前の芝生には初夏になるとネジバナがかわい

博物館は動物天国!?

実は昨年、博物館構内でハクビシンが捕獲され、職員の間で大きな話題になりました。おそらく飼っていたものが逃げ出し、緑が豊富でんびりとした博物館が気に入って棲み着いたもの

と思われる。さて、当時はどうだったのでしょうか。

「本館北側の庭園にはタヌキ、リス、ウサギ、そう野良犬もいたね。もちろん蛇なんかもたくさん。中庭にはニワトリが放されていました」

どうやら、自然に任せたのんびりムードが東博のモットーのよう。

昭和三十八年に茶室転合庵を現在の場所に移築。本館北の庭園については、ほぼ現在のよう形になったそうです。翌二十九年に、お世話になった主任が他界し、その後は永田さんが中心となって庭の手入れすることになりました。

昭和三十九年旧法隆寺宝物館開館、昭和四十二年東洋館開館、昭和五十九年資料館開館、平成十一年平成館開館と博物館には次々と新しい建物が建ち、それに伴って構内の整備も進められました。

樹木の記憶

永田さんに植物の話聞きに行くといつも驚かされるのは、樹木一本一本について、いつ、どんな経緯で植えられたのか、即座に答えが返ってくることです。

「本館前のタイサンボクはね、職員が退官記念に植えたもの。もとは左右一対だったんだけど、本館の壁面にバナーをつけるときに邪魔になるんで右側のだけ移したんですよ。あ



④ 愛用の作業車で



④ 本館前庭は来館者の憩いの場

あ、このカリンは今年がたくさんなってるねえ。これは子供の生まれた記念にと職員が植えたもの。むこうのカリンは当時の次長が秋田から実をもらったのを、私がむいて種をとって植えたもの。このヤマモモは展示会の記念で植えた。これは、イチヨウザクラといって、珍しい木でね、昭和五十年に日本桜の会からいただいたもの。このメタセコイアは、私が来たときはそう、まだこのくらい(胸のあたり)だったかな。この椿は実生。どんな花が咲くか楽しみだからね、



④ 実生のユリノキの若木。いつか見上げるような木になって



④ ユリノキの種

ろん、相当の体力が必要とされます。台風のシーズンや雪の降った朝は折れた枝の始末や、傷んだ樹木のケア

「たええこをやめても、生きている間は見に来るだろうねえ」
いえいえ、その動きはまだまだ若苗のようにしなやかです。
紅葉の季節を迎え、庭を散策する人々の笑顔が永田さんの励みです。明日からもまた、庭を守る日々が続きます。
(構成 小林 牧)

大切にするんですよ」。
ひとつひとつよく覚えておられますね、と感心すると、
「そりゃ、自分で植えたんだから」と、こともなげ。
永田さんにとってもっとも思い出深いのは、昭和四十三年に十本の珍しい桜が贈られたこと。当時の総務部長森永徳弘氏が以前在籍していた縁で、国立遺伝学研究所からさまざまな種類の桜をいただいたのです。
「本館前のヨシノシダレ、本館裏のエドヒガン、ミカドヨシノ、キクザクラ、シヨウフクジザクラ……。みんなそのときのものですよ。宝物館のところに植えたウコンザクラ、表慶館の裏のセンダイヤザクラ、本館裏のシヨウワザクラは枯れてしまったねえ。残念だった。そうそう、前庭のキクザクラは、もう二代めですよ」
それまでにあった、ソメイヨシノ、オオシマ、ギョイコウなどの桜に加え、一気に博物館の桜は華やかになりました。どの木もすっかり大木になって、三月末から四月にかけて次々と花を咲かせます。永田さんはこれらの桜が咲く春の庭がいちばん好きなのだそう。しかし、この桜たちも寿命が心配な時期。この春には奈良の吉野からいただいた桜の苗木を構内の随所に植えました。あと何年かすると、

庭の春夏秋冬

美しい花を咲かせるはずですよ。
大木の移植も思い出深い出来事です。資料館新築の際には重機を使って大きなイチヨウを吊り上げ、屋根の上をこして、たてものの裏側に移すという大変な作業を行いました。北倉庫(現在はない)新築で、応挙館の前にやはりイチヨウの大木を移したときには、植木屋だった永田さんの父親が熊本からたまたま上京して、「東京というのは、まったくすごいことをするとこだ」と驚いていたそうです。木を大切にすることも館のモットーです。



④ 大イチヨウの移植。1975年

をします。もちろん枯れた枝や、来館者の通行の邪魔になる枝など見つけたらすぐその場で処置をします。一日はあつという間に過ぎ、季節は次々とめぐります。

ここで一年の仕事の流れを追ってみましょう。春は樹木の剪定からはじまります。暖かくなると殺虫と消毒。四月から十月までの休館日は、毎週本館前庭の草刈に追われます。夏の間は毎日の水遣りも大変な仕事です。秋に入ると再び樹木の剪定を行い、冬に備えます。多種多様な植物と

永田さんと庭を歩いていたら、小さな苗木に囲いがしてあるのに気づきました。東洋館の裏手にあるユリノキの下です。よく見ると、ユリノキと書かれた小さな木札もあります。「毎年こうして実生で芽が出るんですよ。下草を刈るとき、一緒に巻き込まないように囲いをしておくんです。これは今年の芽、こっちは去年の芽。欲しいという人に分けてあげるようにね、育てているんですよ」
確かに、ユリノキの下には、今年の種がたくさん落ちていました。
「ユリノキを植えるのにはね、ものすごく広い庭じゃないとダメだね」と言いつつ笑う永田さんは、今年七十五歳です。
博物館の仕事はやりがいがありますか？
「やりがいよりも、もう疲れたねえ」
確かに、永田さんの体は小さなユリノキのように華奢に見えます。でも、この庭は永田さんにとって子どものようなものでしょう？
「たええこをやめても、生きている間は見に来るだろうねえ」
いえいえ、その動きはまだまだ若苗のようにしなやかです。
紅葉の季節を迎え、庭を散策する人々の笑顔が永田さんの励みです。明日からもまた、庭を守る日々が続きます。
(構成 小林 牧)



同じく春に植えた桜。どうも元気がない。調べてみると、根元の樹皮に傷が。「これはもうダメだね」



2005年3月に植えた桜の苗木。花が咲くのは何年後かな？



昭和58年、表慶館脇に紅白2本を並べて植えたハナミズキは職員の退職記念樹



表慶館前のスズカケ。「私がきたときはちょうどあの二股になってるところくらいの高さだったよ」



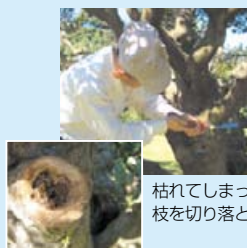
表慶館前に並ぶヒマラヤスギは着任以前からあった大木。向かって右のこの1本だけは昭和44年に、永田さんが植えた



昔使っていた草刈用の鎌。「道具がよくなったからね、昔に比べればずっと楽ですよ」



草刈機や剪定用ののこぎりなど大切な道具



枯れてしまった枝を切り落とす
切り口を見ると、中はすかすか



本館池前のイヌツゲの古木。「こんなふうに根元近くから小さな芽が出るのは、木が年取って弱っている証拠」



黒門脇の植込みにはカリンの木がある。今年は小さい実がたぐさんなった

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より一年（入会月の翌年同月末日まで）有効
賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費	
特別会員	100万円以上
維持会員	法人 20万円 個人 5万円
特典	
●特別展の特別内覧会にご招待	
●東京国立博物館ニュースの送付	
*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。	
*ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。	
*お問い合わせは 東京国立博物館営業開発部 賛助会担当 TEL 03-3822-1111 (代)	

東京国立博物館賛助会員 2005年10月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社 コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様

維持会員

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京葉匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
飯内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様

小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様
櫛田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星 望 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
山本 富三郎 様
寺浦 信之 様
高木 弘幸 様
高木 美華子 様
暁飯島工業株式会社 様
山岡 ユウ子 様
根田 穂美子 様

(ほか21名5社、順不同)

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

◆コンサート開催のお知らせ

クリスマスコンサート ～本館特別5室にて珠玉の歌声を～

日時 12月4日(日) 14:00開演
会場 東京国立博物館 本館特別5室
出演 保田由子(メゾソプラノ)
寺嶋陸也(ピアノ)
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット
曲目 慕わしい木陰よ ヘンデル
七つのスペイン民謡 ファリャ
夢のフィレンツェ チェザリーニ ほか
料金 5000円(平常展観覧券付) 200席 全席自由

ニューイヤーコンサート

日時 2006年1月14日(土) 14:00開演
会場 東京国立博物館 本館特別5室
出演 寺沢希美(ヴァイオリン)
市川雅己(ピアノ)
主催 東京国立博物館 サロン・ド・ソネット
曲目 愛のあいさつ エルガー
コンソレーション リスト
美しき夕暮れ ドビュッシー
チゴイネルワイゼン サラサーテ ほか
料金 3500円(平常展観覧券付) 200席 全席自由

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売り場でチケット販売

受付 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)

●電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL03-3821-9270

受付 月曜日～金曜日の9:30～17:00(祝日は除く)

*チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにてお渡しします

引換時間 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)

※各イベントの詳細は、当館ホームページでご確認ください

※お車のご来館はご遠慮ください

※お問い合わせ 東京国立博物館イベント担当 (TEL 03-3821-9270)

◆展示室 一部閉室のお知らせ

2005年12月12日(月)～22日(木)まで、本館(日本ギャラリー)1階 ジャンル別展示(11室～20室)は、展示ケースメンテナンスのため閉室いたします。閉室期間中はご迷惑をおかけしますが、どうかあしからずご了承くださいませ。

◆年末年始の休館日のお知らせ

2005年12月28日(水)～2006年1月1日(日)まで、年末年始は休館いたします。1月2日(月)・3日(火)は開館し、1月4日(水)は休館いたします。

◆東京国立博物館オリジナルカレンダー プレゼント

東博所蔵の名品を掲載したカレンダーができました。わかりやすい鑑賞ガイドもついています。抽選で10名様にプレゼント。締め切りは12月20日(火)。カレンダーは年内にお届けします。

◆特別展招待券プレゼント

本誌4ページで紹介した「書の至宝—日本と中国」の招待券を抽選で20組40名様にプレゼントします。締め切りは12月20日(火)。招待券は年内にお届けします。

プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、希望賞品(カレンダーか招待券のいずれか一方)、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。締め切りは12月20日、発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室
「ニュース12・1月号」プレゼント係

◆お詫びと訂正

本誌673号 INFORMATION 東大寺講演会の項で、講師の肩書きに、「東大寺管長」とあるのは、「華嚴宗管長・第218世東大寺別当」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



◆九州国立博物館オープン 動き出したアジアの龍

10月16日、九州国立博物館が開館。

展示デザイナーとして準備に参加しました。公開初日には二万三千人の方が来館しました。岡倉天心の構想から百年、龍の姿からモチーフをとった建築全体が、まさに次の百年へと動き出したように見えました。

東京から福岡へ、そして九州国立博物館への道中には、春日原、大宰府など、アジアとの交流の歴史を感じさせる地名が随所に見られます。そんなアジアの熱気が凝縮しているのが1階エントランスホールに設けられた「あじっぱ」。親子で楽しむ無料体験型展示ゾーンです。九博の開館準備は、そんなアジアチックな活気の中で前夜遅くまで続けられました。

メインギャラリー「文化交流展示室」に足を踏み入れると、一つ一つの展示物が浮き上がって見えてきま



作品が浮かび上がる照明。文化交流展示室で



開館準備中のエントランスホール。高くそびえるのは「飾り山」。手前がこどもの広場「あじっぱ」

す。順路はとくに無いので、目に留まった展示ケースから「実物のもつ美しさ」にじっくりと浸ってください。

開館記念特別展「美の国日本」(11月27日まで)の見所は、中国二つ、日本一つ、あわせて三つの「金印」が並んだ展示(11月4日まで)。教科書で習った、あの小さく、しかし強烈に輝く「金印」が、古代日本でどんな力を持っていたか、ここ九州の地で実感しました。

(木下史青)

開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日

月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)

観覧料：一般420円 高校生・大学生130円

お問い合わせ：0570-008886 (ハローダイヤル)
ホームページ：http://www.kyuhaku.jp

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会

口座番号 00160-6-406616

金額 1万円

*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート

口座番号 00120-3-665737

金額 一般3000円、学生2000円

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*郵便振替でのお申込には2週間かかります

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111 (代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担お届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料は申込者のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締め切りは2006年1月10日まで

東京国立博物館利用案内

開館時間：9時30分～17時、4月～12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日：毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日～8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円

* ()内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

◆韓国国立中央博物館日本室オープン

2005年10月28日(金)に韓国の首都ソウルで韓国国立中央博物館の新館が開館し日本室も一般公開が始まりました。日本室は広さ四五〇平方メートル、縄文時代から江戸時代までの作品数十件によって、日本美術の全体像を示すことを目標としています。この日本室の展示を充実させるため、東京国立博物館は重要文化財五件を含む九八件の所蔵品を二年間貸し出します。開館にあたって展示された作品は四九件で、その半分以上が当館の作品となりました。展示作品は定期的に入れ替えられますが、この二年間は当館の作品が展示の柱となる予定です。



日本室が日韓の相互理解と友好の新たな拠点となるよう、今後も協力してまいります。

(谷 豊信)

◆MUSEUM 598号
(平成17年10月15日発行)の掲載論文

①「古代インドの従三十三天降下図」

一 小泉恵英(当館平常展室主任研究員)

②「明代後期の官箴監器の様式に関する一考察」

一 漆器の意匠との関連をめぐって 今井 敦(当館特別展室長)

③「新収品紹介」風雨渡舟図 田能村竹田筆

松嶋雅人(当館特別展室主任研究員)

④「新収品紹介」探幽縮図 狩野探幽筆(上)

小野真由美(当館列品室研究員)

⑤「新収品紹介」島根県松江市山代町

四王寺跡出土の蓮華文鳥簍 時枝 務(文化庁美術学主課)



2005年12月

東京国立博物館 12月・1月の展示・催し物

2006年1月

1 THU	連続講座「宋元時代の書—国内所蔵の名品を中心に—」 14:00 14:30 14:00 資料館セミナー室*1
2 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30
3 SAT	13:30 14:00 14:30 15:00
4 SUN	「北斎展」最終日 クリスマスコンサート 14:00*2 「華麗なる伊万里、雅の京焼」最終日 14:00 14:30
5 MON	休館日
6 TUE	
7 WED	14:00 14:30 15:00
8 THU	14:00 14:00 14:30
9 FRI	14:30
10 SAT	14:00 14:30 15:00
11 SUN	14:00 14:30
12 MON	休館日
13 TUE	列品解説「空間の質—法隆寺宝物館の建築と展示デザイン」 14:00 正門入り池前の看板前
14 WED	14:00 14:30 15:00
15 THU	連続講座「明清時代の書—法帖から金石へ—」 14:00 14:00 資料館セミナー室*3
16 FRI	14:30
17 SAT	講演会「アラビア湾岸考古学入門」 13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 15:00
18 SUN	12:30, 14:00 14:00 14:30 「親と子のギャラリー 鏡のうらおもて」最終日
19 MON	休館日
20 TUE	列品解説「書跡に親しむ」 14:00 本館4室
21 WED	14:00 14:30 15:00
22 THU	14:00
23 FRI	14:30
24 SAT	14:30 15:00
25 SUN	14:00 14:30
26 MON	休館日
27 TUE	
28 WED	休館日
29 THU	休館日
30 FRI	休館日
31 SAT	休館日

- ★＝ボランティアによる本館ハイライトツアー ……集合場所：本館1階エントランス
□＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
○＝ボランティアによる陶磁エリアガイド ……集合場所：本館1階エントランス
◎＝ボランティアによる彫刻ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
●＝ボランティアによる樹木ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
◇＝ボランティアによる考古展示室ガイド ……集合場所：平成館考古展示室入口
↑＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス

〈京都国立博物館〉 11/23(水・祝)～12/25(日) 特集陳列「古今集1100年 新古今集800年記念 和歌と美術」	〈奈良国立博物館〉 12/3(土)～2006年1/15(日) 特別展「金沢文庫の名宝 鎌倉武家文化の精華」 特別展「東大寺公慶上人 江戸時代の大仏復興と奈良」	〈九州国立博物館〉 2006年1/1(日・祝)～4/2(日) 開館記念特別展 第二弾「中国 美の十字路」
---	---	---

1 SUN	元旦・休館日
2 MON	博物館に初もうで 無料観覧日 獅子舞 10:30, 13:00 本館前 新春特別展示「犬と吉祥の美術」 紙切り 11:00, 13:30 正門内池前 和太鼓演奏 12:00, 14:30 正門内池前
3 TUE	獅子舞 10:30, 13:30 本館前 和太鼓演奏 12:30, 14:30 正門内池前 箏曲演奏 11:30, 15:30 本館2階 クラリネットコンサート 14:00, 16:00 東洋館エントランスホール
4 WED	休館日
5 THU	14:30
6 FRI	
7 SAT	東博寄席 11:00, 13:30 応挙館*4 13:30 14:30 15:00
8 SUN	14:00 14:30
9 MON	
10 TUE	休館日
11 WED	特別展「書の至宝—日本と中国」 14:00 14:30 15:00
12 THU	14:00 14:00 14:30
13 FRI	14:30
14 SAT	講演会「国宝 松林図屏風—風と光の情景」 13:30 平成館大講堂 ニューイヤークンサート14:00*5 14:00 14:30 15:00
15 SUN	12:30, 14:00 14:00 14:30
16 MON	休館日
17 TUE	列品解説「中国の吉祥図」 14:00 東洋館第8室
18 WED	14:00 14:30 15:00
19 THU	連続講座「拓本概論—古代の印刷—」 14:00 資料館セミナー室*6 14:00 14:30
20 FRI	14:30
21 SAT	記念講演会「中国書法の受容と和様の成立」 13:30 平成館大講堂*7 13:30 14:00 14:30 15:00
22 SUN	14:00 14:00 14:30
23 MON	休館日
24 TUE	列品解説「土屋安親作 日の出群千鳥図鐫—装剣金工の見方—」 14:00 本館13室
25 WED	14:00 14:30 15:00
26 THU	14:00 14:30
27 FRI	14:30
28 SAT	14:00 14:30 15:00
29 SUN	新春特別展示「犬と吉祥の美術」最終日 博物館に初もうで 最終日 14:00 14:30
30 MON	休館日
31 TUE	列品解説「欧州を魅了した漆器と磁器」 14:00 本館14室

- 2/19まで
●＝ボランティアによる応挙館茶会 ……集合場所：本館1階エントランス
(参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
○＝ボランティアによる庭園茶室ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
(開始1時間前に本館1階で整理券配布)
*1,3,6は事前申込制(申し込みは締め切りしました)
*2,4,5は有料イベントです(本誌2・14ページをご覧ください)。*7は事前申込制(本誌6ページをご覧ください)
※上記の予定は予告なく変更になることがあります。
当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください